

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	舞台実習Ⅲ	
開設学科	声優・演劇科		コース名	俳優・タレントコース		開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	105時間
単位数	3単位		授業形態	実習			
教科書/教材	演劇戯曲の台本を中心に使用、必要に応じて配布。ミュージカル戯曲の場合は楽譜を必要に応じて配布。						
担当教員情報							
担当教員	竹本敏彰・室生春			実務経験の有無・職種	有・俳優　演出家		
学習目的							
この科目を受講する学生は、一年次学んだ基礎演技や舞台総合実習を踏まえ、引き続き舞台公演を行う目的で俳優表現の多様性を学ぶ。演劇舞台空間で与えられた登場人物を表現することで、生き生きと自然に生き抜く喜びを体感できるようになる。同時に集団で芸術作品を創りあげる喜びと難しさを実感し、コミュニケーションする力、協調性の重要性を理解することがねらいである。この科目を受講する学生は「舞台空間を生き抜く俳優」になるための術をあらゆる方向から体感し、学ぶことができる。発声・滑舌力を含む基礎演技、歌唱力の鍛錬を重ねながら、学生ひとりひとりが自己の資質、欠点を理解し、さらなる向上心を持って演技表現を探究することがねらいである。							
到達目標							
学生が舞台空間で生き抜くことの難しさを実感し、実践することで俳優業を理解することが目標である。役者として活動を続けるために必要な努力を模索し、更に、発声力、歌唱力、身体表現力をより発展させ、よりクオリティの高いものを目指しながら、今後の進路、役者としての仕事を深く考察できる力を養うことも目標に加える。この科目は舞台実習Ⅰの授業と深く関連し、専攻的かつ補足的な内容で行われる授業である。より写実的な自然な演技に繋げることが目標である。							
教育方法等							
授業概要	俳優論を理解し、俳優術を具体的に体感していく。舞台実習Ⅰと並行し授業に自信を持って参加できるように、演技の基礎、作品、人物の理解を丁寧に紐解き実践していく。そして、発声力、歌唱力、滑舌力も並行して鍛錬していき最終的に舞台公演へと繋げていく。						
注意点	学生の心身が健全、健康であることを何より優先する。学生とのコミュニケーションを重視し、明るく、清しい授業空間を創ることが肝要である。また、快活で積極的な授業参加を求めるため理由のない遅刻や欠席は認めない。態度が改善されない場合、配役の変更や降板も辞さないこととする。授業時数の4分の3を出席しないものは定期試験を受けることができない。						
評価方法	種別	割合	備　考				
	試験・レポート	30%	作品理解、人物理解を確認するために実施、総合的に評価する				
	平常点	70%	授業への積極的な参加、日常の地道な努力等を総合的に評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	成果発表用の戯曲を創り上げる（1）			課題戯曲（台本）の芸術性、テーマ性、作品を理解する			
2回	成果発表用の戯曲を創り上げる（2）			課題戯曲（台本）を場面に必要な要素を模索する			
3回	成果発表用の戯曲を創り上げる（3）			観客を意識した演劇作品を創り上げるため、必要な要素を理解する			
4回	成果発表用の戯曲を創り上げる（4）			配役（キャスティング）を理解し、自分自身の役割を考察する			
5回	成果発表用の戯曲を創り上げる（5）			課題戯曲（台本）を場面毎に体感し理解する			
6回	成果発表用の戯曲を創り上げる（6）			課題戯曲（台本）を場面毎に体感し理解する			
7回	成果発表用の戯曲を完成させる（1）			それぞれのシーンを繋げ流れるようにする			
8回	成果発表用の戯曲を完成させる（2）			通し稽古をしながら作品全体の完成度を高める			
9回	最終的なリハーサル			本番と同じように音響、照明を含めたりハーサルを行い確認する			
10回	成果発表　本番（1）			観客の前で作品を上演し、舞台を学ぶ			
11回	成果発表　本番（2）			観客の前で作品を上演し、舞台を学ぶ			
12回	成果発表を振り返る			舞台実習Ⅰでの振り返りも含め今後の課題を模索する			
13回	「舞台空間を生き抜く」ための探究（1）			新しい戯曲を分解、理解を深める			
14回	「舞台空間を生き抜く」ための探究（2）			場面毎に実践を繰り返し演技力の向上を目指す			
15回	「舞台空間を生き抜く」ための探究（3）			各場면을創り上げていき、舞台実習Ⅳへの課題を見つける			